

3 市の人たちのくらしのうつりかわり

1 古い道具調べ

身のまわりの
古い道具を
さがして
みましょう。

古い道具をさがそう

自分の家や近所^{きんじょ}の家から、昔^{むかし}のことがわかるものをさがして、調べてみることにしました。



火ばち



わらじ



はがま



きねとうす



七輪

昔^{むかし}の道具から、昔^{むかし}の人たちのくらしのようすについても調べてみましょう。

むかし

昔と今の暮らしをくらべてみよう

古い道具が使われていたころの
くらしのようすを
調べてみましょう。

実に^{むかし}昔の道具を使ってみて、今のものとのちがいをくらべたりそれを使っていた昔の人たちの気持ちを考えたりしてみましょう。



せんたく板

ぎざぎざしている
ところでよごれが
おちたわ。
よくできているなあ。



ほかにも、いろいろなものが
かわってきているね。
もっと調べてみたいな。



^{むかし}昔のせんたくは、いどから
水をくみ上げ、たらいに入れ
てからせんたく板でごしごし
あらったのよ。よごれがひど
いところは、石けんを使って
何度もこすったものよ。寒い
冬は冷たい水を使ってのしごとだったので、と
てもたいへんだったのよ。



火のし



すみ び
炭火アイロン

くらしのうつり
かわりを調べて、
絵や年表などに
まとめてみましょう。

くらしのうつりかわりを調べてみよう

家の人や近所きんじよの人から聞いたことや、自分で調べたことをもとにして、くらしのうつりかわりをまとめてみましょう。



おばあさんの
子どものころのくらし
について聞いてみよう。

お母さんやお父さんは
子どものころ、どんな
遊びをしていたのかな。



乗り物のことも
調べてみたいな。

学校にも昔むかしの道具が
おいてある部屋があったよ。
それに、図書館でも調べられ
そうだね。



小田原城の近くに
きょう土文化館があるよ。
古い道具がたくさんあるらしいよ。
今度行ってみたいな。



小田原市きょう土文化館



行ってみよう



小田原市きょう土文化館
は、小田原城の近くにあ
ります。
昔の道具やくらしのほか
にも、小田原の歴史や自
然のことも知ることがで
きます。

80年から120年くらい前の 小田原のようすとくらし

80年から120年
ほど前のくらしを
調べてみましょう。

きょう土文化館の人の話

このころは、町の中に田や畑がたくさんありました。今よりも農家が多く、食べものも着るものも自分の家で作っていました。今のようなきかいがなかったので、牛や馬を使って田畑をたがやしたり、田うえなどのたいへんなさぎょうは家族や近所きんじよのひとたちなどみんなで力を合わせておこなったりしていました。

子どもたちは、田や川、山などで魚や虫、鳥などをとってあそんでいました。ほかにまわりつきであそんだり、下の子の子守りをしたりもしていました。

小田原の町には電とうがつき、馬車鉄道からかわって電気鉄道が走りました。1920年には東海道線がのびて、小田原駅ができました。町の人たちは駅ができたおいおいをせい大にしたそうです。駅前には、お店や旅館がたちはじめてにぎやかになりました。パンやキャラメル、洋服などのめずらしいものも手に入るようになったそうです。



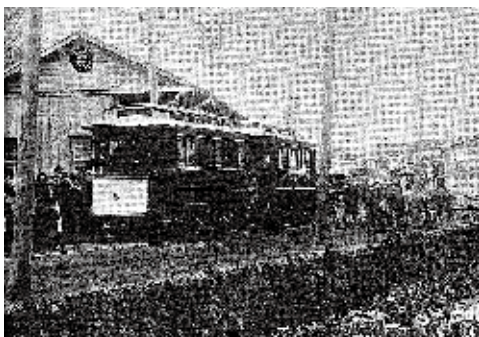
▲農作業では、馬の力を使っていた



▲田植えのようす



◀大人たちが働いている間、赤ちゃんの世話は子どもの仕事だった



▲電気鉄道が走り始めた



▲当時の小田原駅のようす

今から80年ほど前に、大きなせんそうがありました。小田原も空しゅうにあい、多くの人たちがひ害を受け、たいへんな生活をおくりました。



地いきのおばあさんの話

せんそうがはげしくなると、食べ物も生活にひつようなものも十分に手に入らなくなりました。そこで、学校の運動場を畑にしてさつまいもなどを作りましたが、それでも十分に食べることができませんでした。勉強よりも食べ物を作ったり、働いたりすることのほうが、大事に考えられていました。また、小田原もせんそうが終わる直前に空しゅうにあいました。ばくだんは学校の校庭にも落とされました。

この空しゅうで400戸くらいの家がやかれてしまいました。

みんな1日1日をせいっぱい生きていました。今のよう、毎日が平和なことは、とても幸せなことだと思います。



空しゅうのあと



はたらく学生

せんそうの時代を今も伝えるもの

小田原のまちには、せんそうのおそろしさ^{きしゅう たま}を今もわたしたちに教えてくれるものが残っています。そのひとつが市内にある機銃の弾のあとがのこる旧青橋（小田原城の西がわの東海道線などの線路の上にかかる橋）の橋げたです。鉄でできた橋げたをかんたんにつらぬいているようすはせんそうのおそろしさを今も伝えています。

みなさんの地いきにも、ぼうくうごうのあとや石碑などせんそうの時代を伝えるものがあるかもしれません。



40年前から70年くらい前の 小田原のようすとくらし

40年まえから70年
くらい前のくらしを
調べてみましょう。

70年くらい前の小田原のようすとくらし



おじいさんの話

せんそうが終わり、生活をよりよくしようと、当時の人たちは、一生けん命にはたらいたんだ。

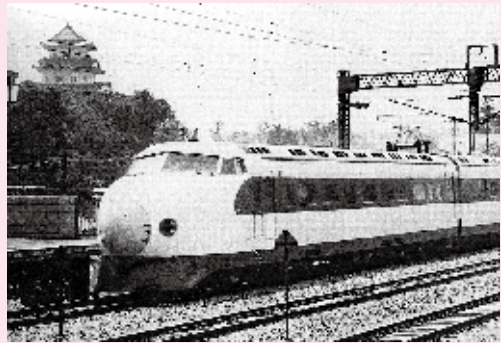
そのおかげで、人々のくらしは豊か^{ゆた}になってきたんだよ。

小田原にも大きな工場がたてられるようになって、しごとのために小田原にひっこしてくる人もふえたんだ。

それから、昭和39年(1964年)になると、新かん線が通って、小田原にも停車するようになったよ。たくさんの人が小田原に集まるようになったんだよ。

そのころの子どもたちは、外で遊ぶことが多かったなあ。野球をしたり、メンコやベーゴマで遊んだり、近所の子どもたちが、みんないっしょに遊んでいたものだよ。

電気せい品がくらしの中に出てきて、カラーテレビを初めて見たときはびっくりしたなあ。



40年くらい前の小田原のようすとくらし



お父さんの話

子どもの遊びにもきかいで作られたものがふえてきて、コンピューターゲームがはやって、むちゅうになって遊んだなあ。昔よりも家の中で遊ぶことが多かったかもしれないね。

小田原のまちでは、小田原駅の東口がせいびされて、小田原地下街もできて、多くのお店やお客さんで駅のまわりはとてもにぎわっていたよ。



2

地いきの人びとが受けついできた文化財^{ざい}と年中行事

わたしたちのまちの「たからもの」は、どのようにして守られてきたのでしょうか。

地いきの「たからもの」を大切にする人たち

お祭りで聞こえてくる「おはやし」は、市内のさまざまな地区で受けつがれています。

多古地区（足柄小学校学区）でも、「小田原ばやし多古ほぞん会」の人びとが、おはやしを大切に守り続けてきました。



わたしたちの地区では、どんなお祭りがあるのかな。



おはやしは、お祭りの山車の上でも、えんそうされていたよ。





ふえ
笛の音をじょうずに
出すのは、むずかし
そうだね。

た こ こう ぶん かん
多古公民館では、月に3
回ほど小学生や中学生、高
校生が集まって、たいこや
ふえの練習をしています。

えんそうのしかたは、おはやしをえんそうできる大人の方が教えてくれます。ほぞん会の人びとは、地いきのお祭りのほかにも、さまざまなも
よおしものにさんかしています。



おはやしを教えている^{しも だ}下田さんの話

わたしは、小学生の時にたいこを始めました。おはやしは、
地いきの先ばいから習っておぼえました。今は、わたしが教
える役です。

練習会では、子どもたちと向かい合っ^{たい}てたいこのリズムを
教えています。たいこがたたけるようになった上学年の子ど
もには、^{ふえ}笛のえんそうもおぼえてもらいます。おはやしをおぼえるには、^{ふえ}笛のメロディー
が大切なのです。ほぞん会では、大人も子どもも、いっしょになって長い^{でん とう}伝統のある「小
田原ばやし」を守っています。



人びとの生活が^か変わってきて、おはやしやお祭りに^{たい}対する考え方も、むかしとは^か変
わってきています。これから大人になっていく子どもたちが、地いきで守られてき
た「たからもの」に、きょう味をもってくれるとうれしいですね。

ほぞん会の子どもの話

1年生のときから、上の学年のお兄さんお姉さんた
ちのえんそうを見ながら、たいこのたたき方をおぼえ
てきました。おはやしは、いろいろな曲があっ^{ふえ}て、む
ずかしいなと思うときもあります。とくに、^{がく ぶ}笛のえん
そうをするには、長い楽譜をおぼえなくてはいけない
ので、たいへんです。



でも、お祭りや大きな発表会で、練習したことがきちんとできると、ほっとします。
自分たちのえんそうをたくさんの人にきいてもらえたときには、とてもうれしいです。

わたしたちの住んでいる
ところでは、どんなもの
を大切に守り、伝えてき
たのでしょうか。(行事、
お祭り、おどりや歌)

市の人たちが守り、伝えてきたもの (いちれい)

田植え歌 (かやま 栢山)



小田原ばやし (たこ 多古)



こんなにたくさん
あるんだね。

地藏尊大祭 (じぞうそんたいさい いたばし 板橋)



鹿島おどり (かしま ねぶかわ 根府川)



だるま市^{いらいずみ} (飯泉)



傘焼きまつり^{かさや しもそが} (下曽我)



寿獅子舞^{ことぶきし しまい しもそが} (下曽我)



相模人形しばい^{さがみ おだけ} (小竹)



奉射祭^{ぶしゃさい おぶね} (小船)



大漁木遣歌^{たいりょう き やり うた ひがしちょう} (東町)



みんな大切にして、
これからもずっとつづ
けていきたいね。



3 これからのまちづくり

まちの夢やみんなの夢をかなえるために何が必要か
いっしょに考えよう。

2030年の小田原に向けて

小田原市は、よりよいまちになっていくために、すんでいる人や、はたらいっている人、学校に通っている人など、地域の人々と市がいっしょになってまちづくりをしています。

そこで、3つのまちづくりの目標を立てています。

① 生活の質の向上

生まれてからずっと幸せと安心を感じられるまち、子どもたちが夢や希望をもって成長できるまちをめざします。

② 地域経済の好循環

小田原の商売が活発になるように国内外から人や会社が集まるまち、四季を通してにぎわいが生まれるまちをつくります。

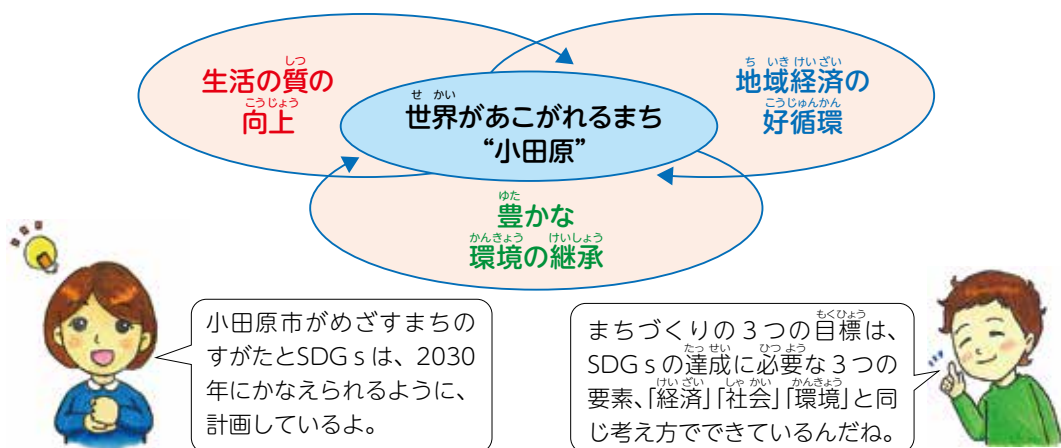
③ 豊かな環境の継承

自然環境と市民がともに生きるまち、気候変動にも対応した災害に強いまちをつくります。



めざすまちのすがた「世界があこがれるまち“小田原”」

「世界があこがれるまち“小田原”」にするために、すんでいるみんなが「小田原が大好き!」と言えるまちとすること、そして、自分のすんでいるまちのことを「大好き!」と言えるあなたのことを見て、世界中から「小田原ってすてきなまちなんだ!」と思ってもらえるようなまちをめざしていきます。



〈市の取組の一部〉



①学習用端末の整備

一人一台の学習用端末で、疑問に思ったことについて深く調べたり、自分のペースで学習したりします。



②小田原三の丸ホール

芸術文化活動の場となる小田原三の丸ホールは、新しいにぎわいの拠点として多くのイベントが行われています。



③再生可能エネルギーの導入

2050年の脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーを積極的に取り入れています。



④市と市民の力をあわせた取組

未来の小田原をより良くするために、いろいろな人が力をあわせて協力しています。

「SDGs」ってなに？

「わたしたちがずっと地球にすみ続けることができる方法で行動しよう」と2015年に世界193の国で、17の目ひょう（SDGs）を作り、2030年までの達成を目指しています。

小田原市は2019年に国からSDGs未来都市として認められ、市民のみなさんと協力して、身の回りにある問題のかいけつに向けて様々な取組を行っています。

